

## 2025年度 Future Design プログラムの最終報告会記録 Record of Future Design Program Final Report Meeting in 2025

関西大学教育開発支援センター  
Kansai University, Center for Teaching & Learning

キーワード SD、人材育成、FD / SD, Human Resource Development, FD

### 1. はじめに

Future Design プログラムは、学生、教員、職員が連携してこれから取り組むべき課題を発見し、社会の変革に対応し、時代に即した教育を展開できる能力を育成することを目的とする三者協働の研修プログラムである。グループワークを中心に、教育の質や学びの場の創出、学生支援、情報発信など多角的な視点から議論を深め、最終的には実践的な提案を取りまとめる。多様な参加者との対話を通じて、分析力・企画力・共創力を養い、大学の未来を共に描くことを目的としている。

企画・運営は教育開発支援センター「FD/SD 連携プロジェクト」が担った。今年度のテーマは、『学生・教員・職員が共に考える「学生がもっと学びたい関西大学」』とし、関西大学の現状を明確にするとともに、強みや弱みを把握したうえで、具体的に関西大学の魅力を高める施策を提案する内容とした。

本プログラムは、2025年10月10日から10月31日まで、毎週金曜1限(9:00~10:30)、全4回で構成され、第3回目終了後に各グループによる最終報告会の機会を設けた。第1回では教育推進部教授より、他大学の先進事例の紹介および「学生時代の学び」を振り返るワークを行い、前半では先進事例を通し教育改革の方向性について理解を深め、後半では自身の学生時代の経験を振り返ることで、大学構成員としての立場と学習者としての視点を往還的に捉える試みがなされた。また、第2回と第3回では、最終報告会に向けたグループワークが行われ、各班が発表テーマを設定し、提案内容の具体化に向けた議論を重ねた。

(図1)



図1 広報用チラシ

本プログラムは、学生・教員・職員による三者協働の混合グループを編成して実施した。対象者については、学生は関西大学における学習支援・学生生活支援・大学教育等に関心を有する者を募集し、教員は専任・非常勤を問わず広く周知を行った。職員については、人材開発課と連携し、職員研修の一環として募集を実施した。その結果、学生7名(35.0%)、教員4名(20.0%)、職員9名(45.0%)の計20名が参加し、1グループ4名の計5グループに編成した。グループ分けに際しては、可能な限り三者が均等に配置されるよう配慮した。

本稿では、2025年10月31日に開催した最終報告会(図2)において、各グループが報告した内容を記録として残す。

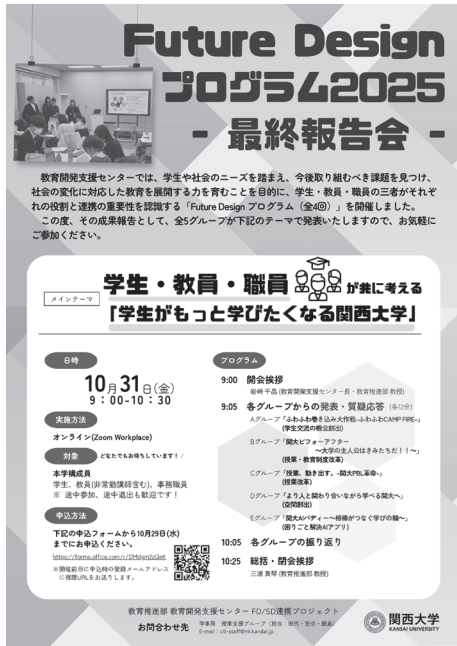
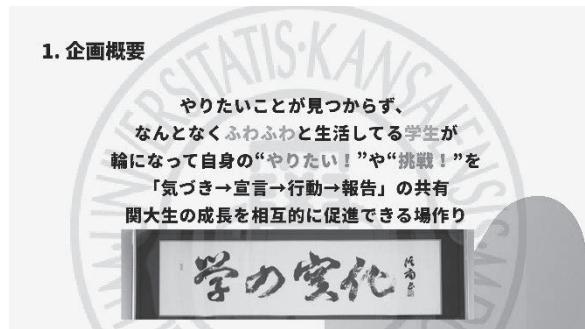


図2 最終報告会広報用チラシ

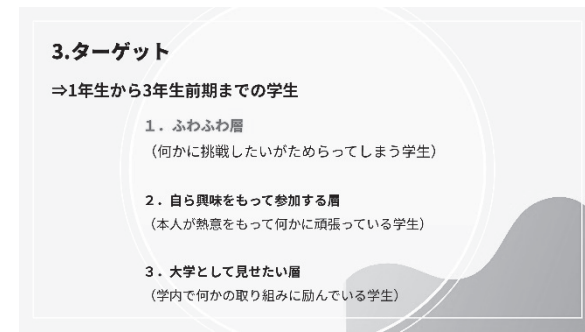
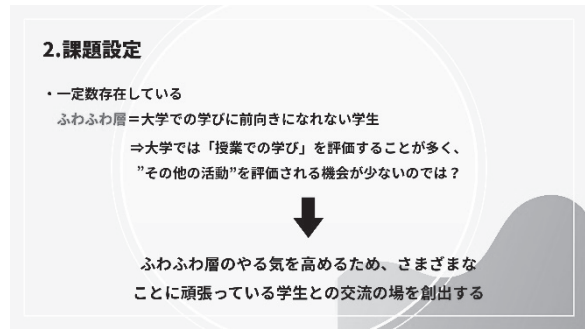


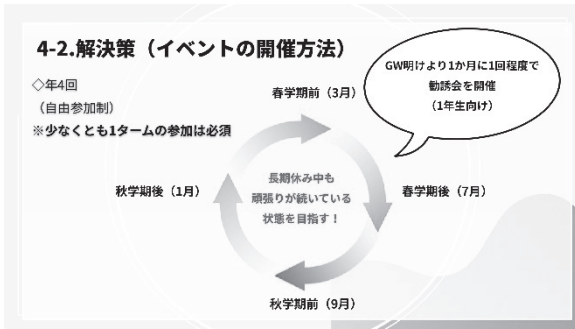
2. 各グループの発表内容

全5グループの発表内容（スライド）は次のとおりである。

2.1. Aグループ「ふわふわ巻き込み大作戦 - ふわふわCAMP FIRE -」

本田 貴人（商学部生）、溝口 侑（教育推進部特別任用准教授）、上田 和葉（入試広報G）、細野 真（初等部・中等部・高等部事務室）

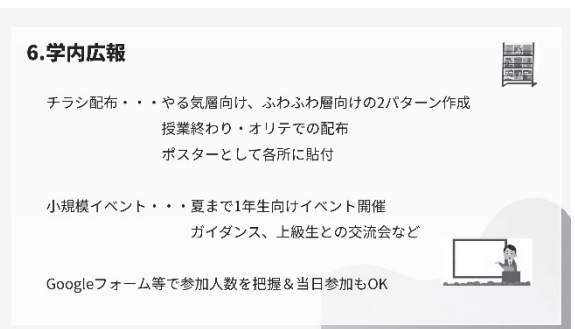
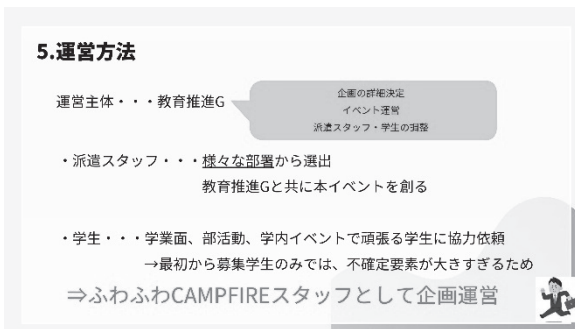




### 4-3. 解決策 (イベントのタイムテーブル)

1回のイベントはランチャを含む2時間半を予定。

11:30~12:00	オープニング・セッション ・初めて参加する学生向けの進路説明 ・すでに取り組んでいる活動がある人に、プレゼンしてもらおうセッション
12:00~12:30	ランチオン・セッション ・ランチをしながら、自己紹介を含めて軽い交流 <small>大学へのお願い!</small> ・広げたいクラブ・サークルからの積極提供タイム <small>大学へのお願い!</small>
12:30~13:30	交流セッション1 ・これまでの活動 (今回のタームで取り組んだこと) の成果を共有する時間 ・4-5人のグループで30分×2セット
13:30~14:00	交流セッション2 ・これからの活動 (次のタームで取り組みたいこと) の目標や計画を共有する時間 ・4-5人のグループで30分



## 2.2. Bグループ「関大ビフォーアフター ～大学の主人公はきみたちだ!!～」

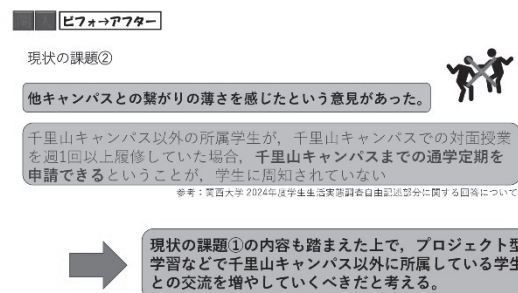
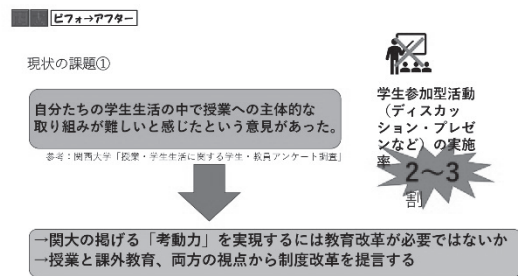
福塚 勇汰 (文学部生)、森田 真実 (社会学部生)、大森 一毅 (学長課)、高橋 名香 (教務事務 / 教務第2)



### ビフォーアフター

もくじ

・現状の課題	3,4
・改善案 - 履修上限の緩和	5
・新規案 ① - キャンパス間交流	6
② - 大学・地域間留学	7
・結論	8
・参考文献	9



ビフォーアフター

改善案－履修上限の緩和

科目によっては受講できる単位数に制限がある

例) プロジェクト学習

…大学での学びや実社会に役立つスキルの獲得と資質・能力の育成を目的とした科目

現状:プロジェクト学習は4年間で1人2科目まで

GPAなど学位を参考に(学部・専攻内での)上位者のプロジェクト学習履修上限を緩和することで、受講生の学びに対する意欲を向上する

参考文献

- ・ 関西大学 学生支援グループ 2024年度学生支援整備計画(自己啓発)に関する内容について  
<https://www.kansai-u.ac.jp/sakusei/support/assets/research/2024/itaichousakafou.pdf> (閲覧日:2025/10/24)
- ・ 早稲田大学 早稲田大学国際学部 早稲田大学国際学部 早稲田大学国際学部  
<https://www.waseda.jp/intercolloplato/cross-boundary-learning-program/>

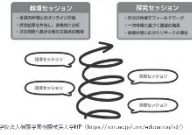
ビフォーアフター

新規案①－キャンパス間交流



千里山キャンパス所属学生と他キャンパス所属学生との交流のため、プロジェクト学習やキャリア形成科目群などの柔軟かつ役立つ科目でハイブリット型(対面・オンライン)の実施をする。

< 桐蔭横浜大学 大学間越境学習プログラム >



例: ビジネスデータサイエンス、人間健康、総合情報、社会安全などによる多方面の学部で交流

2.3. Cグループ

「授業、動き出す。－関大PBL革命－」

荒井 結加(商学部生)、中尾 悠利子(総合情報学部教授)、池田 ひな(地域・高大連G)、高田 凌佑(ミューズキャンパスG)

ビフォーアフター

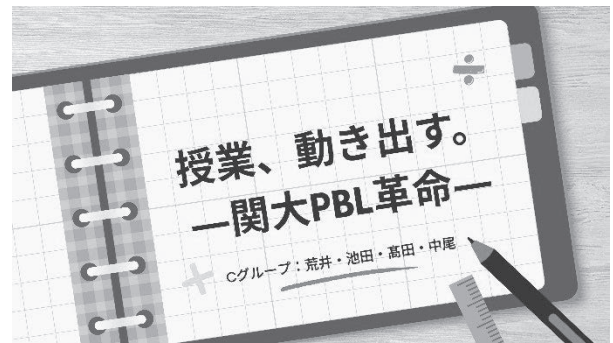
新規案②－大学・地域間交換留学

1.国内大学間留学の強化



**メリット**  
 関東→関西だけでなく、地方の大学とも連携することで、その土地や大学の強みを生かして専門的に研究・学習を進めることができる

実際に関西大⇒法政大間で実施しているが、認知度は低い、実態がわかりづらい



ビフォーアフター

新規案②－大学・地域間交換留学

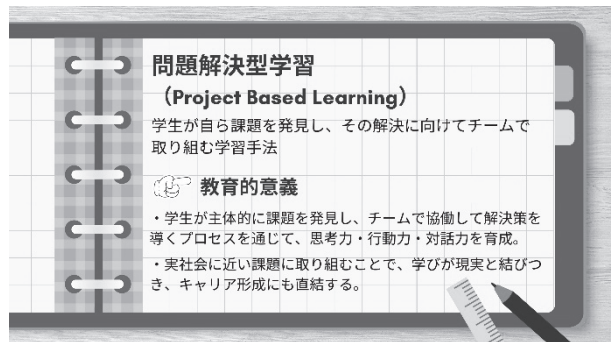
2.全国横断型複数大学交換留学



**メリット**  
 全国の提携大学を一定の期間で移動しながら各地ならではの研究・学習を進められ、大学としても他地方からの入学希望者の確保という側面に互いに利点が多い

長期: 国外留学と同様ハードルは高い  
 → 単位認定・費用負担などは手厚く

短期: 長期休み期間などを活用し、参加しやすさを重視



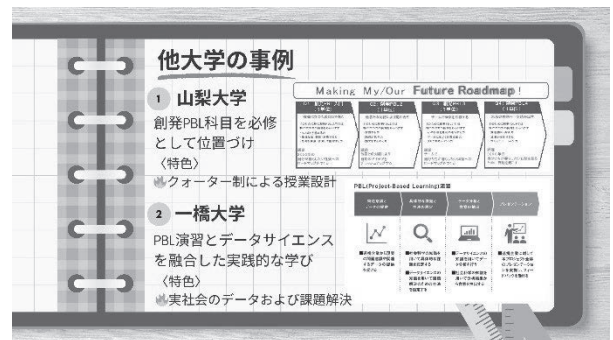
ビフォーアフター

今後の展望

履修上限の緩和により、未来につながる学びを拡充し、「学びたくなる関大」を実現する

学生たちの主体的な取り組みを促進し、「考動力」の実現につながる

キャンパスを超えた交流を活発化し、「関西大学」としての新たな強みを生み出す。また、学内のみならず、学外にも交流の輪を広げ、関西大学の知名度を各地で上げる



**関西大学の現状①** 大学の授業で継続したいと思う活動

課題を自分で見いだせない学生が増加、4割超

考動カコンピテンシー③

グループでの学習

**関西大学の現状② (学の実化!?)**

卒業時調査の「あまりあてはまらない」が20%超の学部もある

1・2年生でのPBLの授業が必修化されていない

[40-09]社会が抱えている課題を把握し、解決に向けて取り組みができる

**PBL革命への道筋 ~常識を覆す!?~**

- 1 PBL推進センターの設立
- 2 全学共通PBLのカリキュラム設計開発
- 3 企業や地域社会と連携し、PBLの「プロジェクト・バンク (課題集)」を構築
- 4 PBLの必修化導入

**PBLと共に生きる関大**

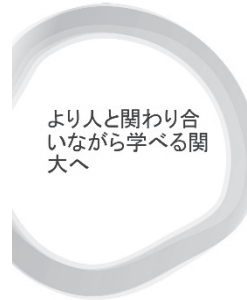
- 1年次から実社会の課題に触れることで、2年次以降の専門学習への動機づけとその先のキャリア (就職) を接続させる
- 自ら課題を見つけ、解決策を模索する中で、考動カ (自律力・人間力・社会力・国際力・革新力) が育まれる
- 「学の実化」 関西大学の理念・目的

**学生×教員×職員の手で 関大PBL革命を起こそう!**

## 2.4. Dグループ

「より人と関わり合いながら学べる関大へ」

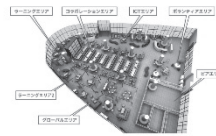
橋本 木実 (政策創造学部生)、森貞 誠(ビジネスデータサイエンス学部 准教授)、松田 美菜子 (情報推進G)、山口 健太 (学部院/法文)



- D班
- ・ ビジネスデータサイエンス学部 森貞先生
  - ・ 政策創造学部 橋本
  - ・ 法文オフィス 山口
  - ・ 情報推進グループ 松田

## ラーニングコモンズ

- ・ 各キャンパスに一箇所に設置
- ・ 学生の声・使い方は? 周知が少ない!



学習活動のさまざまな場面で活用してください。

- ・ さまざまなグループで学びあう
- ・ 勉強会を開催する
- ・ 学習相談も受けられます!

## アクティビティで脳を活性化しながら

定型的な机、いすを置かないラーニングコモンズ

バランスボールや四角いクッション等を置いて、それを自由に椅子、机として各自が自由に活用する



フィンランドの教室の一例

## 温かみのある学習スペースに

リラックスできる空間で、集中力・集客力を増やす

半個室で人の目を気にせず集中できる空間に



安田女子大学 ラーニングエリア

### 理想的なラーニングcommons

- ①人が集まり、コミュニケーションがとりたくなる
- ②親しみやすいラーニングcommons

⇒各学会ごとに理想的なラーニングcommonsの要素を持つ教室を設置  
⇒授業時間外はラーニングcommonsとして開放

### 他キャンパス・他学部とのつながりの希薄さ

現状

- 自分たちの学部・キャンパス内で完結してしまいがち
- 他キャンパスの学生との交流機会が限られている
- 関大に入学しても、所属する学部以外のキャンパスに行ったことがない学生が多い

⇒結果として、学びの幅が狭まり、ネットワークづくりの機会も失われている

### 他大学の現状

- 近畿大学  
360度画像を用いたVR空間での授業コンテンツを開発・公開
- 東京大学  
仮想空間「バーチャルキャンパス」では、時間や空間を越えて学生・教員・研究者が集える場を設置

〈メリット〉  
アクセシビリティの向上 双方向・交流性の設計  
〈検討課題〉  
目的設計が重要 技術・環境の整備が鍵

### 他キャンパスの学生とも関わりをもてる関大に！

①関大5キャンパスをつなぐ新たな試み

②学年暦変更を契機に  
14+1

③VRを活用した新たな交流

移動の負担が軽減  
どこでも学べる！

### VRの活用はほかにも！

**現状と課題**  
学校に来れない学生が多い  
せっかく関大に入学しても、人付き合いに不安を抱えている  
「学びたいけれど学べない」学生が増加

**目指す方向性**  
VRなどの新技術を活用し、気軽に大学とつながる環境を  
学びを保障しつつ、学生が大学へ来るきっかけを創出  
ラーニングcommonsと融合して他キャンパスとのつながりをホームキャンパスにしながら持つ環境づくり

## 2.5. Eグループ

### 「関大 AI バディー ～相棒がつなぐ学びの輪～」

上村 凜(社会学部生)、吉田 彩乃(商学部生)、丸野 由希(ビジネスデータサイエンス学部教授)、ハンター・マーク秀樹(国際教育G)

Future Designプログラム2025  
関大AIバディー  
～相棒がつなぐ学びの輪～

グループE: 吉田(学生)、上村(学生)、丸野(教員)、ハンター(職員)  
2025/10/31 @KITENE (第2学舎1号館1階)

### 目次

- 三者の現状
- 細かな事例、課題点
- 解決策のご提案
- さいごに

2

### 大学における「忙しさ」がもたらす弊害

— 学生・教員・職員、それぞれの立場から考える —

**学生**  
部活やバイトなど授業外の時間が足りない  
⇒学びの作業化、教員・職員への相談が減少

**教員**  
授業・委員会・会議・書類対応などに追われ、授業改善が後回しに  
⇒学生対応の減少、教職員の連携が希薄に

**職員**  
事務処理・学生支援・広報などが複雑化  
⇒学生対応の減少、教職員の連携が希薄に

忙しさ

3

### 大学における「忙しさ」がもたらす弊害

— 学生・教員・職員、それぞれの立場から考える —

全体の悪循環  
◎ 負のスパイラル  
忙しさ → 相談・共有時間の減少 → ミス・不満増加 → さらに忙しくなる

結果  
・教育・研究・運営の質が低下。  
・信頼関係が薄れ、改革が進まない。

問い  
忙しさの原因は「仕事量」だけ？  
「情報共有」や「仕組み」にも問題があるのでは？

4

大学における「忙しさ」がもたらす弊害  
— 学生・教員・職員、それぞれの立場から考える —

全体の悪循環  
◎ 負のスパイラル  
忙しさ → 相談・共有時間の減少 → ミス・不満増加 → さらに忙しくなる

結果  
・教育・研究・運営の質が低下。  
・信頼関係が薄れ、改革が進まない。

問い  
忙しさの原因は「仕事量」だけ？  
「情報共有」や「仕組み」にも問題があるのでは？

4

関大の課題

- 必要な情報を追いきれていない、見つけられない
- 必要な情報の見落としなどが発生
- 学内イベントなどの周知がうまく機能していない

忙しさの原因に？

最大の課題  
学内システムの数が多く、  
学生教員職員の三者とも使いきれていない

9

事例1：締め切り等スケジュール管理が大変

多くの授業を履修する中で...

どの授業の課題の締め切りがいつまでなのか忘れがちになる...

自分たちでカレンダーにメモするけど、どうしても抜ける事がある...

LMS等の課題締め切りの通知はないので、学生が個人で予定を管理するがどこかで抜けてしまう

6

関大 AIバディー

関大の学内システム

- インフォメーションシステム（お知らせ、個人伝言）
- 関大LMS（授業に関するお知らせ、メッセージ機能）
- 関西大学教務ガイド「KAN-CAN!」
- KICSS 参考：KAN-CAN! 大学からの連絡について <https://www.kansai-u.ac.jp/kancan/studentlife/contact.html>
- メール
- Teams（授業に関するお知らせ、チャット機能）

多くの学内ツールが存在している

5

関大AIバディーの導入 ※バディー (buddy) = 信頼できる相棒

全学生・全教職員に自分専用のAIバディーを導入

在学中・在職中、24時間365日、AIバディーが寄り添ってくれます。バディーの休曜日（ニシステムメンテナンス日）も時々あるかも。

関大AIバディーにできること

- 授業課題や予定管理のサポート
- 学内イベントなどをサジェスト
- 就学上や業務上のお悩み相談
- 在学中/在職中の個人の成長の見守り
- 学修ポートフォリオの作成
- 各部署AIとの連携

上村 (学生) 吉田 (学生) 丸野 (教員) ハンター (職員)

11

事例2：必要な情報の見落としなどが発生

履修ガイダンスについて、学生たちに個人伝言で連絡

既読がつかない...。開催日も迫っているのに... どうしよう!! そうだ、基礎演習の各教員にお願いして学生に「個人伝言」を見るように伝えてもらおう!

履修対象	追加対象人数	開封人数	開封率
基礎	2134	138	6%
基礎ミックス	164	65	6%
専	1398	106	8%
教員みらい	354	57	14%

授業で学生たちに「個人伝言」を見るように伝えました!

7

三者が関大AIバディーに求める機能

学生

- ・講義の課題や提出締切日をカレンダーと連携して分かりやすく
- ・個人伝言や授業の休講など重要な情報は通知が来るようにしてほしい

教員

- ・予定管理機能で他者とのやり取りをサポートしてほしい
- ・業務に必要な情報を教えてほしい

職員

- ・学生の興味・関心にあった情報を確実に伝えたい
- ・学生教員とのスケジュールをすり合わせてほしい

12

事例3：様々なサイトや学内施設、イベントを生かしてきていない

重要な情報がどこにあるのかが分からない  
アプリもいちいちログインする手間が面倒

Future Designプログラムの参加募集を見落としたり。参加したかったなあ...

イベント告知が上手く伝わらず、学生・教職員の参加率低下や学べるチャンスを活かしてきていない

8

関大AIバディーの役割 実現可能性

関西大学教務ガイド「KAN-CAN!」、インフォメーションシステム、KICSSなどの既存システムで蓄積してきたデータをAIに学習させる。

導入後は各部署で部署AIを育成（=随時、情報更新）

教育推進部 国際部 教務部 社会連携部 吹田みらいキャンパス事務室 (BDS)

連携 連携

関大AIバディー

13

**事例 1 with 関大AIパディー：締め切り等スケジュール管理が容易に**

多くの授業を履修する中で...

学生: どの授業の課題の締め切りがいつまでなのか忘れがちになる...

AIパディー: 10/31に最終報告会があるから、そろそろ発表練習した方がいいんじゃない？

学生: たしかに～！じゃあ練習に付き合ってね。

AIパディーのアシストにより  
予定管理が容易に


14

**さいごに**

関大AIパディーは、学生、教員、職員をつなぎ  
三者の学びの輪を広げていく相棒です。

相棒とともに新しい学びが生まれ  
もっと学びやすく、もっと挑戦できる大学へ。

それが...



19

**事例 2 with 関大AIパディー：必要な情報の見落としを回避**

履修ガイダンスについて、学生たちに個人伝書で連絡

教職員: 各学生のAIパディーが適切なタイミングで履修ガイダンスのリマインドをしてくれるので安心！

AIパディー: 明日の10時から履修ガイダンスがあるよ！教室はS201。学生証も忘れずにね！

学生: 了解！明日は2限からだと思っただ。

AIパディーのアシストにより  
見落としを回避

15

**事例 3 with 関大AIパディー：必要なサイトにすぐにアクセス可能**

そろそろ就職活動をはじめよう！

学生: 就活情報がどこにあるのかわからないアプリもいちいちログインする手間が面倒

AIパディー: 就活情報ならKICCSだよ！このリンクから飛んでね！  
<https://xxx.kandai-u.xxx>

学生: パディー、ありがとう！

AIパディーを通して  
必要な人に必要な情報を伝達！

16

**期待される効果**

学生

- 課題の提出もれを防ぎスケジュールに余裕ができる
- 1回生の段階から多くの学内ツールを認知でき、よりよい学生生活の質が上がる

教員

- 時間と心にゆとりが生まれ、より良い教育や研究を行うことができる
- モチベーションの向上

職員

- 複雑な判断を要する作業/対面でのやり取りに時間を割けるように
- 職員のやりがい向上

大学全体

- より安心して学べる/働ける大学に
- 学生および教職員のAIリテラシー教育
- 「AI・データサイエンス教育プログラム」の大学独自の教育プログラムとして学内外にアビール

参考：AI・データサイエンス教育プログラム  
<https://www.kansai-u.ac.jp/ds/index.html>

17

**展開**

**実施スケジュール**

- 今年度または次年度の入試広報に間に合うようなスケジューリング
- 数年後にはAIパディーが当たり前の世の中になることも想定して、可能な限り早く導入するのが望ましい

**実施に向けた課題**

- 予算の獲得
- 委託業者の選定
- 仕様検討（学生・教員・職員）

18

**参考文献**

関西大学教育開発支援センター（2025）「2024年度 三者協働（学生・教員・職員）によるFD/SD 研修プログラムの最終報告会記録」『関西大学高等教育研究』16, 85-94.

関西大学教育開発支援センター（2024）「2023年度 三者協働（学生・教員・職員）によるFD/SD 研修プログラムの最終報告会記録」『関西大学高等教育研究』15, 135-143.

関西大学教育開発支援センター（2023）「2022年度 三者協働（学生・教員・職員）によるFD/SD 研修プログラムの最終報告会記録」『関西大学高等教育研究』14, 111-123